

2025 年度前期
「授業改善のための学生アンケート」 結果報告書

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

目 次

1. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要	
① 目的	1
② 実施概要	1
③ 実施方法	1
④ 設問の内容	2
⑤ 実施科目数	3
2. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 集計結果	
① 学部	4
② 大学院	9
3. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 みなさんの声に応えて	
① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ	14
② FD・SD 推進委員会からのメッセージ	17
4. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 顕彰授業	
① 顕彰授業	18
② 顕彰授業における工夫	19

1. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」 実施目的・概要

① 目的

- 1) さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。あくまで教員の自発的な取り組みを助けるものであり、いかなる形においても、教員の評価・査定の資料とするものではない。
- 2) 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- 3) 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- 4) 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- 5) 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

② 実施概要

実 施 期 間：2025 年 7 月 2 日（水）～7 月 25 日（金）

実 施 対 象：文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、

大学院（国・フ・英・言）専門科目

※対象外科目でも教員の希望により実施可

調 査 方 式：CampusSquare（Web） 自由記述欄あり（p.3 参照）

※学部・大学院統一フォーム

調査所要時間：約 10 分

③ 実施方法

- 1) 授業終了の10分前を目安に、履修学生にアンケート回答時間を設ける。回答は原則として授業時間内に行う。
- 2) 授業担当教員は、学生に対し実施目的をよく読み、回答を行うように指示する。
- 3) 回答が完了しない学生が生じた場合は、実施期間中の任意の時間に、回答を行うように指示する。

④ 設問の内容

設問と回答選択肢は以下の通り。

- Q1 (大学院科目対象外) あなたは授業以外の学習(予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など)に、平均してどの程度時間をかけましたか。
Ⅰ. 週2時間以上 Ⅱ. 週1~2時間 Ⅲ. 週30分~1時間 Ⅳ. 週0分~30分 Ⅴ. 全くしていない
- Q2 この授業の進度は適切でしたか。
Ⅰ. 速すぎる Ⅱ. やや速い Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや遅い Ⅴ. 遅すぎる
- Q3 この授業の難易度は適切でしたか。
Ⅰ. 難しすぎる Ⅱ. やや難しい Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや易しい Ⅴ. 易しすぎる
- Q4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。
Ⅰ. 多すぎる Ⅱ. やや多い Ⅲ. ちょうどよい Ⅳ. やや少ない Ⅴ. 少なすぎる
- Q5 この授業のシラバスはわかりやすかった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない

- Q12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q17 この授業を履修したことに満足している。
Ⅰ. あてはまる Ⅱ. どちらかと言えばあてはまる Ⅲ. どちらとも言えない
Ⅳ. どちらかと言えばあてはまらない Ⅴ. あてはまらない
- Q18 この授業について、良かった点を、自由に記述してください。（自由記述）
- Q19 この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。（自由記述）
- Q20 この授業を受講して、あなた自身が学んだこと、反省していることなどを、自由に記述してください。（自由記述）
- Q21 （教員より指示があった場合のみ回答） ※教員個別設定質問 （自由記述）
- Q22 この授業を評価するにあたって、このアンケートの質問項目は十分かつ適切だ。
Ⅰ. はい Ⅱ. いいえ
- Q23 （Q22 で「いいえ」と答えた人のみ回答） 欠けている項目、不適切な項目などを、具体的に記述してください。（自由記述）

⑤ 実施科目数

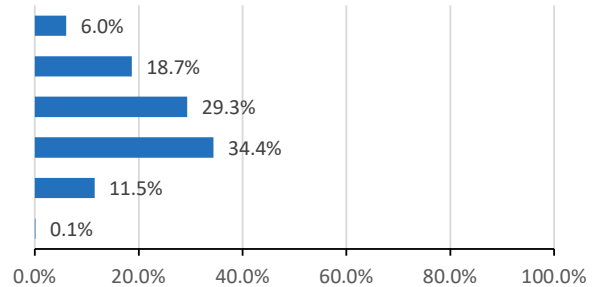
291 科目（学部：285、大学院：6）

2. 2025年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

① 学部

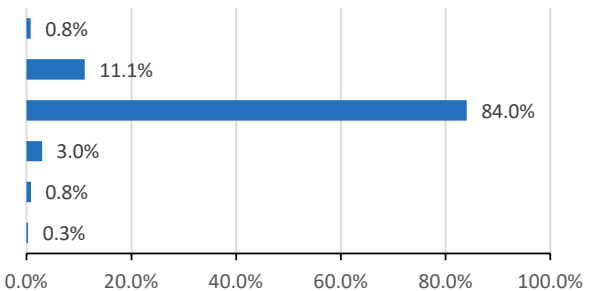
Q 1 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	124	6.0%
2	週1～2時間	384	18.7%
3	週30分～1時間	603	29.3%
4	週0分～30分	707	34.4%
5	全くしていない	236	11.5%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,056	



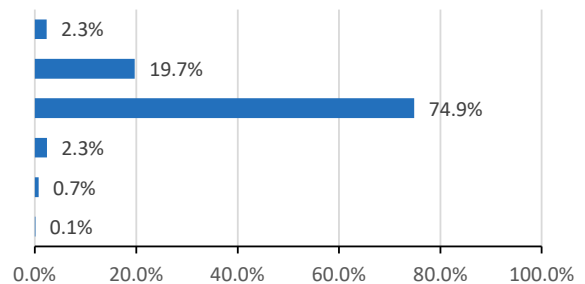
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	16	0.8%
2	やや速い	228	11.1%
3	ちょうどよい	1,728	84.0%
4	やや遅い	61	3.0%
5	遅すぎる	17	0.8%
6	非該当	6	0.3%
	合計	2,056	



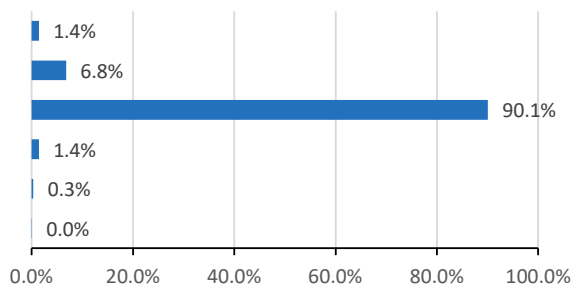
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	47	2.3%
2	やや難しい	405	19.7%
3	ちょうどよい	1,539	74.9%
4	やや易しい	48	2.3%
5	易しすぎる	15	0.7%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,056	



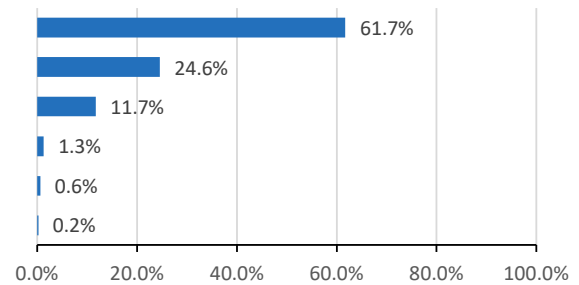
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	29	1.4%
2	やや多い	139	6.8%
3	ちょうどよい	1,852	90.1%
4	やや少ない	29	1.4%
5	少なすぎる	6	0.3%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,056	



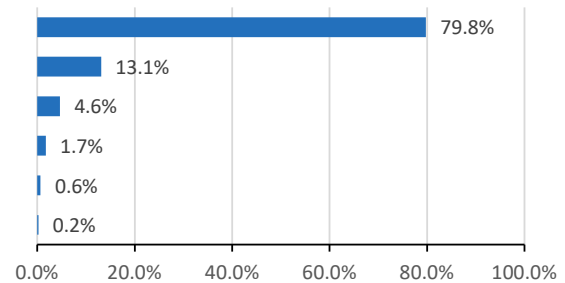
Q 5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,269	61.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	505	24.6%
3	どちらとも言えない	240	11.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	26	1.3%
5	あてはまらない	12	0.6%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,056	



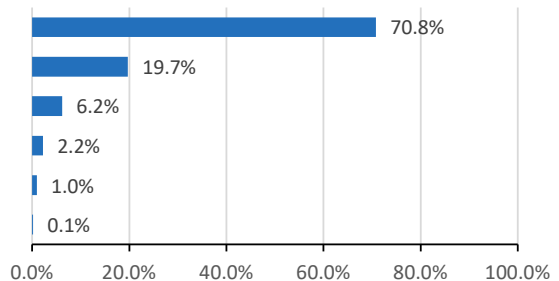
Q 6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,640	79.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	269	13.1%
3	どちらとも言えない	95	4.6%
4	どちらかと言えばあてはまらない	35	1.7%
5	あてはまらない	13	0.6%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,056	



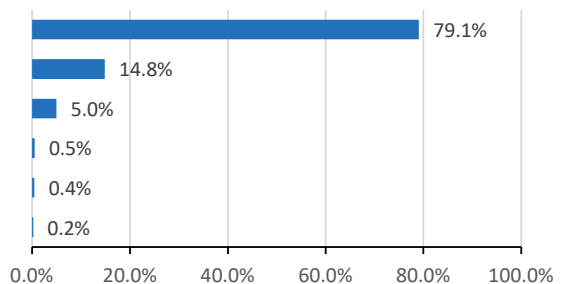
Q 7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,456	70.8%
2	どちらかと言えばあてはまる	405	19.7%
3	どちらとも言えない	127	6.2%
4	どちらかと言えばあてはまらない	45	2.2%
5	あてはまらない	20	1.0%
6	非該当	3	0.1%
	合計	2,056	



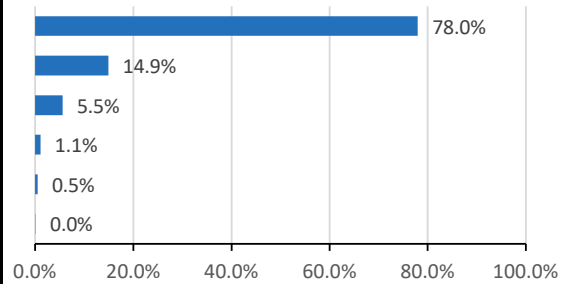
Q 8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,626	79.1%
2	どちらかと言えばあてはまる	305	14.8%
3	どちらとも言えない	102	5.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	10	0.5%
5	あてはまらない	9	0.4%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,056	



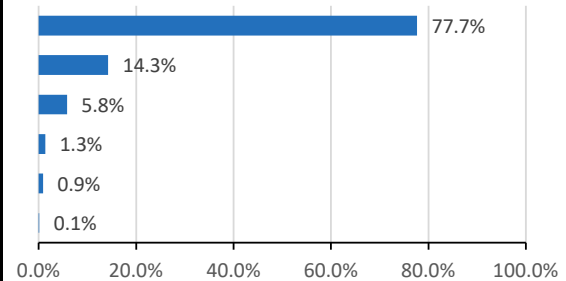
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,603	78.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	306	14.9%
3	どちらとも言えない	114	5.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	22	1.1%
5	あてはまらない	10	0.5%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,056	



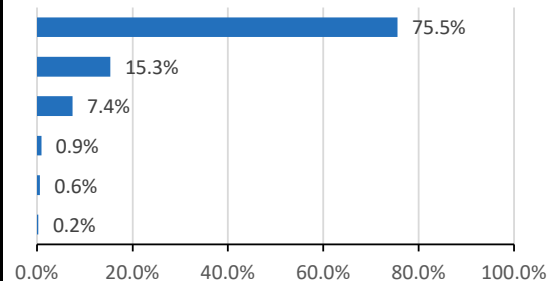
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,597	77.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	293	14.3%
3	どちらとも言えない	119	5.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	27	1.3%
5	あてはまらない	18	0.9%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,056	



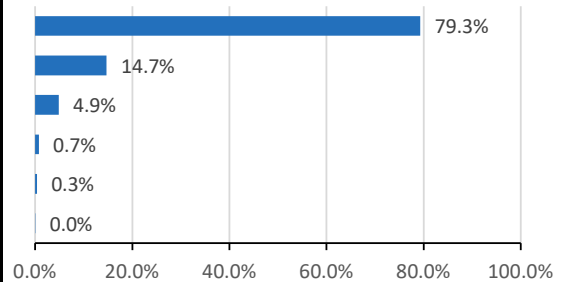
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,553	75.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	315	15.3%
3	どちらとも言えない	153	7.4%
4	どちらかと言えばあてはまらない	18	0.9%
5	あてはまらない	12	0.6%
6	非該当	5	0.2%
	合計	2,056	



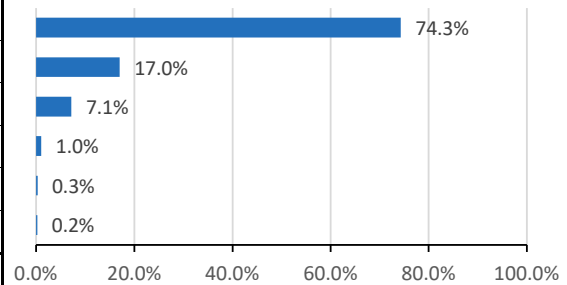
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,631	79.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	302	14.7%
3	どちらとも言えない	100	4.9%
4	どちらかと言えばあてはまらない	15	0.7%
5	あてはまらない	7	0.3%
6	非該当	1	0.0%
	合計	2,056	



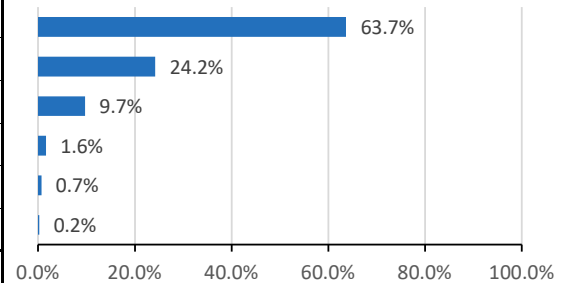
Q 13 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,528	74.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	350	17.0%
3	どちらとも言えない	147	7.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	21	1.0%
5	あてはまらない	6	0.3%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,056	



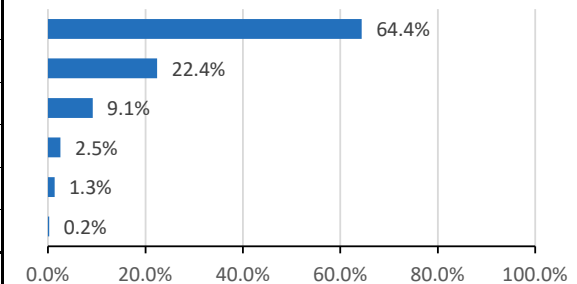
Q 14 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,309	63.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	497	24.2%
3	どちらとも言えない	199	9.7%
4	どちらかと言えばあてはまらない	33	1.6%
5	あてはまらない	14	0.7%
6	非該当	4	0.2%
	合計	2,056	



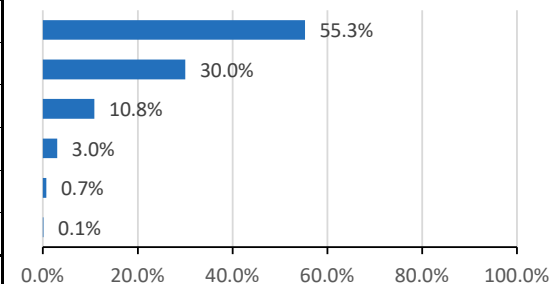
Q 15 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,324	64.4%
2	どちらかと言えばあてはまる	460	22.4%
3	どちらとも言えない	188	9.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	52	2.5%
5	あてはまらない	27	1.3%
6	非該当	5	0.2%
	合計	2,056	



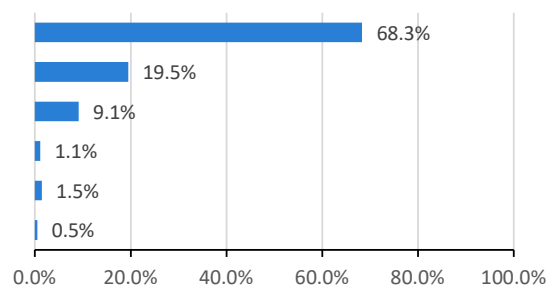
Q 16 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,137	55.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	617	30.0%
3	どちらとも言えない	223	10.8%
4	どちらかと言えばあてはまらない	62	3.0%
5	あてはまらない	15	0.7%
6	非該当	2	0.1%
	合計	2,056	



Q 17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	1,405	68.3%
2	どちらかと言えばあてはまる	400	19.5%
3	どちらとも言えない	188	9.1%
4	どちらかと言えばあてはまらない	23	1.1%
5	あてはまらない	30	1.5%
6	非該当	10	0.5%
	合計	2,056	



2. 2025年度前期「授業改善のための学生アンケート」の集計結果

②大学院

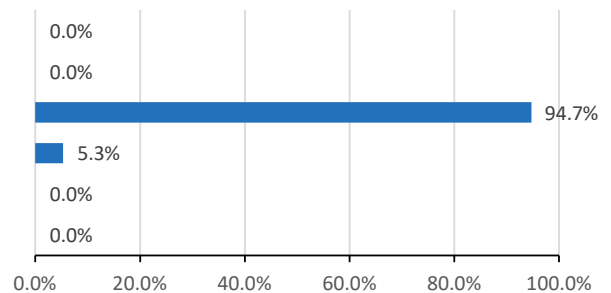
Q 1 （大学院科目対象外） 授業以外の学習（予習復習、レポート作成、自主的な関連学習など）に、平均してどの程度時間をかけましたか。

No.	Category	度数	%
1	週2時間以上	0	
2	週1～2時間	0	
3	週30分～1時間	0	
4	週0分～30分	0	
5	全くしていない	0	
6	非該当	0	
	合計	0	

大学院科目対象外

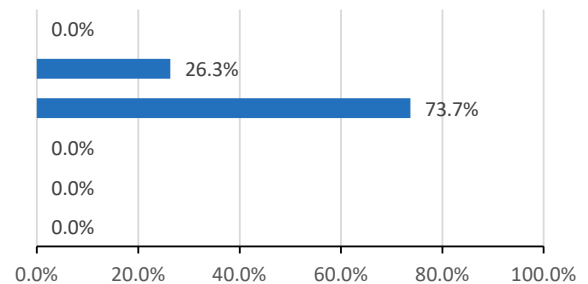
Q 2 この授業の進度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	速すぎる	0	0.0%
2	やや速い	0	0.0%
3	ちょうどよい	18	94.7%
4	やや遅い	1	5.3%
5	遅すぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



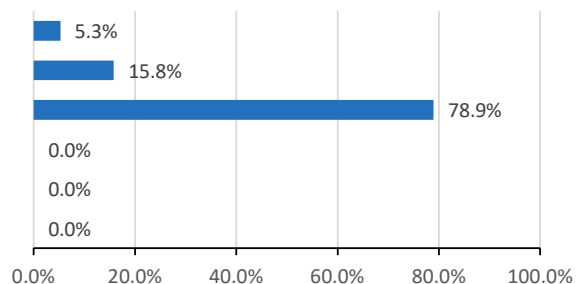
Q 3 この授業の難易度は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	難しすぎる	0	0.0%
2	やや難しい	5	26.3%
3	ちょうどよい	14	73.7%
4	やや易しい	0	0.0%
5	易しすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



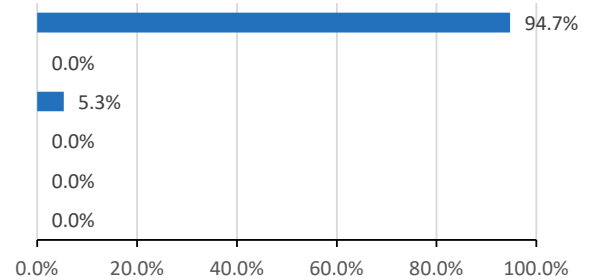
Q 4 この授業で課される課題の量は適切でしたか。

No.	Category	度数	%
1	多すぎる	1	5.3%
2	やや多い	3	15.8%
3	ちょうどよい	15	78.9%
4	やや少ない	0	0.0%
5	少なすぎる	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



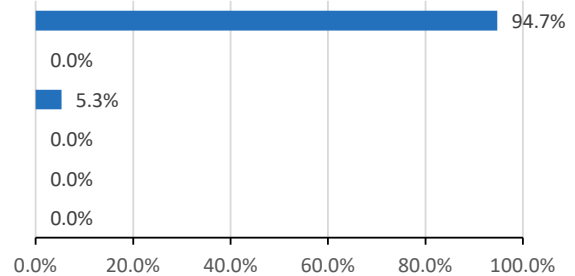
Q 5 この授業のシラバスはわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	18	94.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



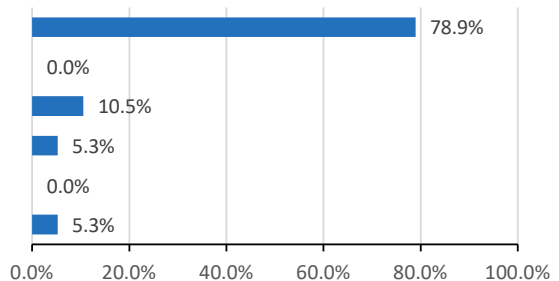
Q 6 この授業の開始と終了の時刻は守られていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	18	94.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



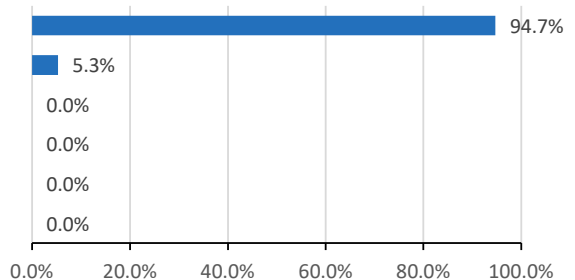
Q 7 教員の説明はわかりやすかった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	15	78.9%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	2	10.5%
4	どちらかと言えばあてはまらない	1	5.3%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	1	5.3%
	合計	19	



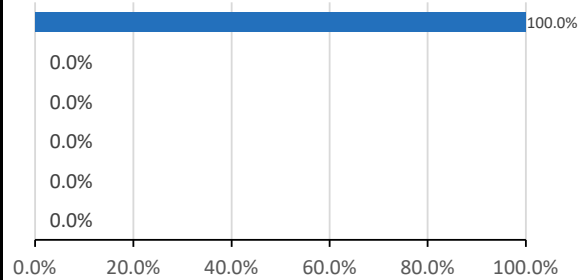
Q 8 教員は授業に際して、十分に準備をしていると感じた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	18	94.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	1	5.3%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



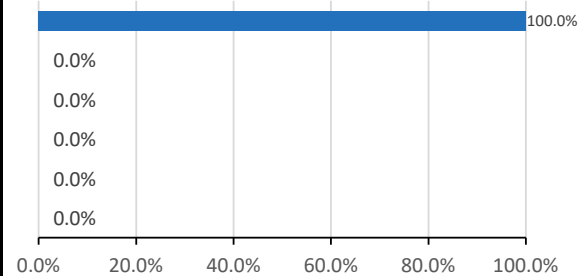
Q 9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	19	100.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



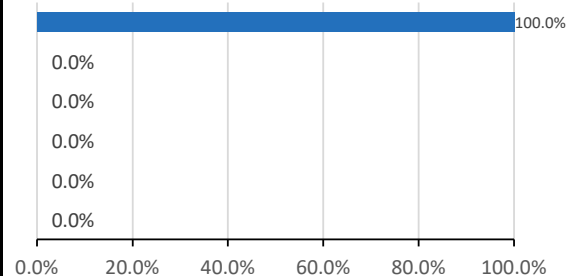
Q 10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	19	100.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



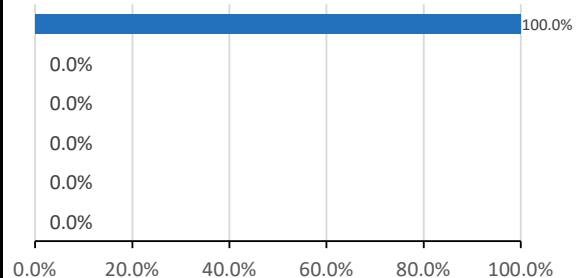
Q 11 教員は学生の課題や提出物に対し適切なフィードバックを行っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	19	100.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



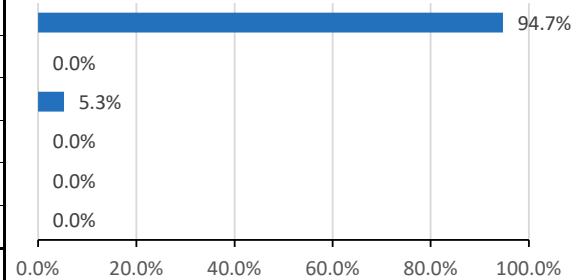
Q 12 この授業の学びの環境（教室等の設備、履修人数、図書館・研究室の資料）は適切だった。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	19	100.0%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



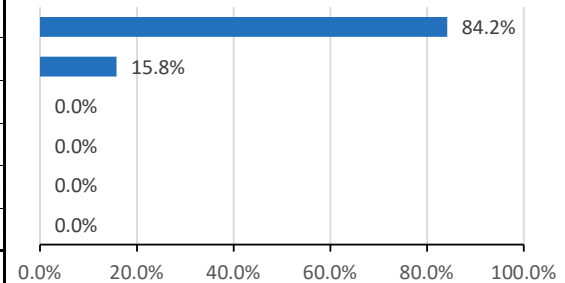
Q 1 3 この授業の内容はシラバスに沿っていた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	18	94.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



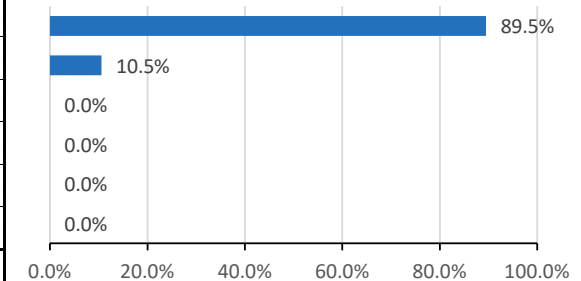
Q 1 4 この授業に主体的に取り組むことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	16	84.2%
2	どちらかと言えばあてはまる	3	15.8%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



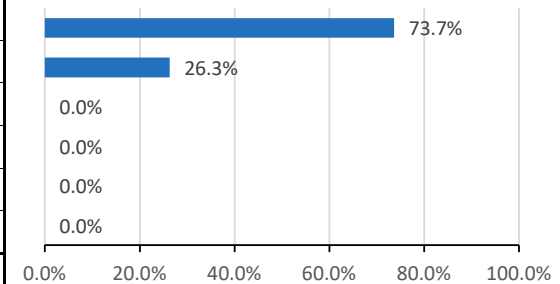
Q 1 5 この授業の内容に興味を持つことができた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	17	89.5%
2	どちらかと言えばあてはまる	2	10.5%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



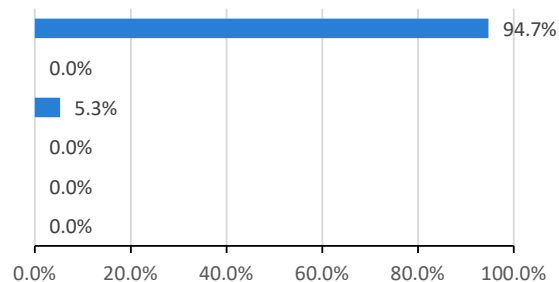
Q 1 6 この授業の内容を十分に習得できた。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	14	73.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	5	26.3%
3	どちらとも言えない	0	0.0%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



Q 17 この授業を履修したことに満足している。

No.	Category	度数	%
1	あてはまる	18	94.7%
2	どちらかと言えばあてはまる	0	0.0%
3	どちらとも言えない	1	5.3%
4	どちらかと言えばあてはまらない	0	0.0%
5	あてはまらない	0	0.0%
6	非該当	0	0.0%
	合計	19	



3. 2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」みなさんの声に応じて

学生の皆さんが回答してくれたアンケート結果は、個人が特定されないように集計された後、自由記述も含めて、担当教員へすべて確実に届いています。この章では、アンケートを通じて届けられたみなさんの声に応じて、授業担当教員、FD・SD 推進委員会からのメッセージをお届けいたします。

① 学部科目 授業担当教員からのメッセージ

基礎演習（日本語）	常盤 智子	2025／水 5／前期
【Q18～20】日本語に興味をもつことができたこと、レポートの書き方やツールの使い方などをしっかり学べたというコメントがあり、基礎演習の目的を達することができ、良かったと思いました。今後の学びに活用してください。また、他の人の発表からの刺激を受けることもできたというコメントも、大切だと思いました。興味を同じくする仲間と、お互いに切磋琢磨しながら、これからの学びを深めていきましょう。		

基礎演習（日本語）	平井 吾門	2025／金 4／前期
全体的に意図やレベルにズレが生じていなかったようで安心しました。		

国語学概論Ⅰ	佐々木 文彦	2025／水 1／前期
音声・音韻を中心に国語学の基礎を身につける科目です。 アンケートで皆さんから寄せられた自由記述についてコメントします。 【Q18：良かった点】 「manaba を豊富に活用することでフィードバックを多くすることができ、習得しやすかったです。」「音素記号、音声記号を学んだことによって日常生活で役立った」「授業の進度がちょうどよく、様々な資料を使っていた点が良かったです。」 など、この授業を受講して満足したこと、日本語に対する理解が進んだことなど、たくさんの感想が寄せられました。教科書の内容を知識として理解することはもちろん重要なことですが、常に「なぜ？」ということを考えながら進めていくことを心がけています。 【Q19：この授業をよりよくするためにアイデアがあれば】 「家で勉強方法がまだわからないので、課題を出していただけると有難いです。」 ⇒無理のない範囲で事前・事後学修課題を提示するようにいたします。 「資料が見られるのはいいですが、できれば板書のようなものが欲しいです。」 ⇒スクリーン上でワードを用いて板書しているつもりですが、もっとわかりやすいように工夫いたします。また、manaba にもメモを残して共有しているのですが、さらにわかりやす		

くなるように工夫します。

学生の皆さんがこの科目を通じて日本語に今まで以上に興味を持ち、深く考える習慣を身につけてくださることを願っております。

国語学講義AⅠ

佐々木 文彦

2025／水2／前期

PC教室を利用して古典語の意味・用法について用例観察をしながら確認、考察する授業です。「をかし」「うつくし」「やしなふ」「あづく」など、現代語と異なる意味・用法を持っていた語がどのように変化してきたのか、学生各自が課題を見つけてまとめるという作業をしていただきました。

【Q18：この授業について、良かった点】

「先生からのフィードバックが分かりやすく説明されており、自分の答えだけでなく、他の人の答えを聞く機会を設けてくれたことが良かった。」

「国語学を学ぶ上で必要のある、調査の方法などを理解することができた。」

など、この授業を通じて国語学に興味を持ち、調べたり考えたりすることが出来るようになったという自由記述が見られました。

【Q19：この授業をよりよくするためにアイデアがあれば、自由に記述してください。】

「調べたりまとめたりする期間をもう少し長くしてもらいたい。」

という記述が1件ありました。今後は調べる期間に余裕を持たせる工夫をします。

【Q20：この授業を受講して、あなた自身が学んだこと】

「ジャパナレッジや中納言を活用して、用例を探す方法などを学ぶことができた。」

「自分の考え方やまとめ方、昔の言葉などを学びました。」

「言葉の意味によってその時代背景、言葉の意味変化を知ることができた。」

などの記述がありました。

この授業を通じて、言葉の意味やその変化を辞書の記述から学ぶだけでなく、実際の用例を観察しながら確認していくという視点をもっていただけたら幸いです。

国語国文学特講（演劇）Ⅰ

安富 順

2025／金2／前期

アンケートへのご協力ありがとうございました。概ね安定的評価を頂き、安堵しています。ありがとうございました。

動画視聴が古典演劇への理解促進にかなり有効な手段であることが、自由記述より分かりました。今後、受講生の皆さんがより一層興味を覚えるような動画使用を、授業計画に盛り込みます。

英語表現Ⅰ A	坂本 ひとみ	2025/水 1/前期
学生さんからすべての設問について、とてもよい評価をいただき、後期もがんばってよりよい授業をしようと考えているところです。一人の方の自由記述を読んで、きびしい指摘でも、学生さんとの信頼関係が築けていて、私が愛情をもって学生さんをより成長させようと思っ ていることが伝わっているなら、学生さんたちはそれにこたえてくれるということがわかりま した。彼女のコメントを引用します。「先生からは英語表現について厳しいと感じるような指 摘もあったが、それはそれでどうにか私を成長させようとしているのだなと思い、頑張って期 待に応えたいと思える授業だった。どんな時もポジティブで、フィードバックにはいつも熱 心に、そして、明確なアドバイスをくれた。また、疑問に対してもそのように熱心で分かりや すく根拠のある返しをくれてとても助かった。この授業についてよかったことは、英語の細か いニュアンスの違いまで教えてくれたり、小さな間違いも理由をつけてちゃんと教えてくれ たことである。」		

英語科教育法Ⅰ A	坂本 ひとみ	2025/月 3/前期
授業を受けての満足度はよい点をいただきましたが、自由記述で、私が遅刻をした学生に対し てあまいというご指摘をいただきまして、反省しております。教職課程ですから、遅刻は厳禁 であり、きびしい面も示していかないとはいけませんね。後期が始まりましたら、みなさんにこ のことをお話し、お互いに時間はきちんと守るようにする事の重要性について確認したい と思います。		

特別活動（中・高）	石川 俊一郎	2025/水 3/前期
【Q10 教員の質問への対応】で「あてはまらない」の評価があった。学生に対して、常に 丁寧な対応を意識していく。 【Q19 授業をよりよくするためのアイデア】で、「学生への対応」について、意見があっ た。今後は気を引き締めて対応をしていく。また、「模擬授業」について意見があった。いた だいた意見は真摯に受け止め、今後の授業に生かしていく。		

生徒指導・進路指導（中・高）	石川 俊一郎	2025/水 4/前期
【Q10 教員の質問への対応】で、「どちらかといえば十分とはいえない」という評価があ った。学生に対しては、ご意見を真摯に受け止め、今後も対応していく。		

② FD・SD 推進委員会からのメッセージ

学生・教職員の皆様、この度は、「授業改善のための学生アンケート」へご協力くださいまして、誠にありがとうございました。

今回のアンケート結果からも、概ね、全ての質問項目において、学生の満足度が高いという傾向がみられました。学生自身の学習に対する自己評価はやや控えめではありましたが、本学の学生の気質を合わせて考えると、回答者の学びへの姿勢も良好のように思われます。前回同様、授業以外の学習時間については、回答にばらつきがみられ、学生によって授業の準備や復習に差がしやすい傾向があることがわかりました。

各授業に対する具体的なコメントは授業改善にとって、大変有益です。また、それに対するフィードバックは、今後の取り組みに生かされることと思います。引き続き、皆様の率直で建設的な意見をお寄せくださいますよう、お願い申し上げます。

アンケートの回収率や、自由記述への回答率は、あまり高くない傾向が続いています。委員会では、次回以降、アンケートの実施方法や、設問数などを改善していく予定です。

「授業改善のための学生アンケート」2025 年度前期 顕彰授業について

2025 年 9 月 18 日

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」は 2010 年度より実施し、2017 年度からは集計結果を活用した顕彰制度を導入しています。アンケートの結果は個々の授業やカリキュラム改善に役立てられているほか、高評価を得た授業を公表し、その授業の優れている点を大学全体で共有しています。なお 2022 年度より 2 年間で全科目のアンケートを実施することとし、2024・2025 年度は全科目区分を 2 分割して実施しています。2025 年度は、文学部専門科目、外国語科目、中等教職課程科目、大学院（国・フ・英・言）専門科目が対象です。

2025 年度前期の結果は以下のとおりです。顕彰された授業における工夫等を追って公開する予定です。授業のあり方は授業の数だけありますが、顕彰された授業における工夫を知ることにより、よりよい学びのためのヒントが得られる機会になればと願っています。

2025 年度前期

少人数部門（履修者 6～19 名）

フランス語フランス文学科専門科目 水曜 2 限 前期

「専門ゼミⅠ」 畠山 香奈 先生（文学部フランス語フランス文学科准教授）

多人数部門（履修者 20 名以上）

国語国文学科専門科目 火曜 2 限 前期

「書道」 中野 和博 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の目的（実施要領より抜粋）

- ① さまざまな角度から学生の反応・実態を知ること、個々の授業の授業内容・教授方法等を、教員自身が見直し改善するための材料を提供する。
- ② 設備や機材、資料など、学習に適した環境を大学がどの程度提供できているかを測定し、これを改善していくための材料を得る。
- ③ 学生が学びたい内容を適切なレベルできちんと教授できているかを知り、大学全体、あるいは学科や学年ごとのカリキュラム内容を、必要に応じて改善していくための材料を得る。
- ④ 科目に対する学生の意欲や、授業時間外での学習の実態を把握することで、カリキュラムが想定している努力を学生が傾けているかを測定し、必要に応じて改善の方法を探るための材料を得る。
- ⑤ 学生に対して、自らの学習のあり方を見直し、大学での学習をより実りあるものとするための材料を提供する。

白百合女子大学「授業改善のための学生アンケート」の集計結果を活用した顕彰制度

[実施方法]

- ① 実施時期は各学期末とし、前期末は前期科目、学年末は後期科目と通年科目を対象とする。
- ② 集計の単位は授業毎とする。学部科目と大学院科目を区別しない。
- ③ 集計する設問は、以下の 6 項目（項目毎の平均点の合計／30 点満点）とする。
 - Q7 教員の説明はわかりやすかった。
 - Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
 - Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
 - Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
 - Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
 - Q16 この授業の内容を十分に習得できた。
- ④ 顕彰対象は当該年度のアンケート実施対象授業のうち、6 名以上の回答が得られたものとする。
- ⑤ 顕彰部門は、「少人数」（履修者数 6～19 名）と「多人数」（履修者数 20 名以上）の 2 部門とする。
- ⑥ 白百合女子大学 FD・SD 推進委員会は、選考資料をもとに各部門第 1 位を確認、顕彰対象授業を決定する。
その際アンケート回答率によって順位を調整する場合がある。その後、顕彰対象授業の担当教員へ表彰を行う。
- ⑦ 表彰授業・担当教員名は、大学 Web サイトにて公表する。

[実施主体]

白百合女子大学 FD・SD 推進委員会

「授業改善のための学生アンケート」2025 年度前期 顕彰授業における工夫

2025 年度前期「授業改善のための学生アンケート」の顕彰授業における工夫をご紹介します。

【参考】顕彰の対象となったアンケート項目は以下の 6 項目です。

- Q7 教員の説明はわかりやすかった。
- Q9 教科書や配布資料など、教材は適切だった。
- Q10 学生の質問や相談に対して、教員の対応は適切だった。
- Q14 この授業に主体的に取り組むことができた。
- Q15 この授業の内容に興味を持つことができた。
- Q16 この授業の内容を十分に習得できた。

< 少人数部門（履修者 6～19 名） >

「専門ゼミ I」 畠山 香奈 先生（文学部フランス語フランス文学科准教授）

2025 水 2 前期 フランス語フランス文学科専門科目

「専門ゼミ I」では、17 世紀フランスの演劇とギリシア神話をテーマに授業を行っています。ルイ 14 世に象徴される 17 世紀フランスと現在の日本にはあまり共通点がないように思われますが、当時の芸術作品の源泉であったギリシア神話に着目すると、人間のあり方や人間関係など、複数の現代的なテーマが浮き彫りになってきます。「専門ゼミ I」は、資料の読解とディスカッション、発表という流れで進めていて、特別なツールは何も使っていません。このようないわば古典的な授業に学生たちが主体的に取り組み（Q14）、興味を持ってくれたこと（Q15）を大変うれしく思います。授業の工夫と授業をしていて気づいた点をいくつかご紹介させていただきます。

○ ディスカッション—フィクションをとおして自分について考える面白さに気づいてもらう

ゼミでは、「日常とまったく違う世界をとおして身近なことについて考える」をテーマとしています。2025 年度は、モリエールの『守銭奴』と、「アモルとプシュケ」を扱って授業を行いました。ゼミ生には、フランス演劇やギリシア神話の基礎知識を求めています。なので、毎回授業内容に関連した身近なディスカッションのテーマを設定することで——たとえば、「パリスの審判」がテーマの回は「美しさを競うってどう思う？」がお題でした——、学生たちが授業内容を理解し、積極的に発言できるように工夫をしました。

○ 身近な例を用いて説明をする（Q7）

後期のゼミでは、学生たちに発表をしてもらいます。その準備として、「専門ゼミ I」では、佐々木健一『論文ゼミナール』（東京大学出版、2014 年）を参照しながら、スターバツ

クスのロゴやディズニー作品の『リトル・マーメイド』などを例に、発表の仕方、問いの立て方について解説をしました。

○ 学生たちが主体的に取り組める環境づくり

リアクションペーパーを読むと、しばしば「みんなが違う意見でおもしろい」というコメントがあります。そのため、ゼミでは席替えをして、毎回異なるゼミ生とペアになってディスカッションをしています。自分とは違う意見を聞き、双方の意見をまとめて発表するという流れで進めています。

○ 工夫の限界に気づく

以上が授業運営で工夫している点ですが、工夫の限界に気づいたことも重要な気づきのひとつだと思っています。教員は、授業のねらいや到達目標を設定していますが、さまざまな意見が出て、議論がおおいに盛り上がり、教員の当初のねらいとはまったく違う結果が生じることがあります。こうしたことが「授業は生き物」と言われるゆえんだと思いますが、このような想定外の展開を楽しみ、学生に学ぶ姿勢も大切な心掛けだと思っています。

< 多人数部門（履修者 20 名以上） >

「書道」 中野 和博 先生（文学部国語国文学科非常勤講師）

2025 火 2 前期 国語国文学科専門科目

白百合女子大学の書道は、学生が将来的に教える立場になることを踏まえた授業にしなければならないため、高校の教科書を参考に授業を組み立てています。特に毛筆を扱う基本に力を入れて。

毛筆には硬筆にない「弾力」があります。それを活かした筆使いが大前提となります。が、ほとんどの学生は弾力を意識して書いたことなど一度もないのが実情です。そのため、実技指導はまずはこちらが実際に解説しながら書いて見せる。その後に筆と一緒に持って書いてみる。解らない・上手くない等には何度でも助けに行く。という進め方で入っていきます。

この書いて見せるという範書と、学生の道具を使って一緒に筆を持って書く、そして手を挙げればすぐに駆けつけてアドバイスする、の三つが工夫といえ工夫でしょうか。

筆使いには基本の基本だけでなく、癖のある筆使いもあれば、これは変と感じてしまうようなものまで幅広く、また楷書から行書など書体は五つあります。そのため字形や全体のバランスまで注意すると無理がきてしまうと思っているので、私の指導は筆使いだけ注意すれば良い、とすることが中心です。この字形を良く、つまり見た目をキレイにしなくても良いんだ…という指導は学生には新鮮らしい。この指導方法も工夫になるのかもしれない。

これからも学生が「なるほど」と解りやすい説明と、「できた・書けた」という実技指導を実践していきたいと思います。

